

ポイント1 詩の種類

(1) 「文体」と「形式」の分類

▼文体上の分類

文語詩 || 文語体 (古語) で書かれた詩。

口語詩 || 口語体 (現代語) で書かれた詩。

▼形式上の分類

定型詩 || 各行の音数に一定のきまりがある詩。

自由詩 || 音数にとらわれない自由な形式の詩。

散文詩 || 普通の文章 (散文) の形式で書かれた詩。

↓ 「詩の種類」は、文体と形式の種類を組み合わせ、「〇語〇〇詩」と答えることが多い。

① 次の詩の種類を答えなさい。
() (語) () (詩)

相聞 さうもん 芥川龍之介 あぐたがわりゆうのすけ
また立ちかへる水無月の みなづき
嘆きを誰にかたるべき。 なげ
沙羅のみづ枝に花さけば、 さらか
かなしき人の目ぞ見ゆる。

② 「見えないだけ」の詩の種類を答えなさい。
() (語) () (詩)

↓ 俳句や短歌は日本の定型詩である。ヨーロッパのソネットや中国の絶句や律詩も定型詩。
正解は……
① 文語定型詩
② 口語自由詩

ポイント2 詩の表現技法

(1) 表現技法の種類

▼表現技法 || 様々な文章の中に見られる表現上の技術や工夫のこと。

表現技法によって様々な効果が生まれる。

↓ 表現技法の種類 (名称や用法) は共通だが、文章の種類 (詩・短歌・俳句など) によって、使われ方の特徴が見られる。

↓ 詩の表現技法は、ワーク P.4 や 資料集 P.138 を参考にしよう。

ポイント3 詩の主題

(1) 「全体」から考える

▼題 ↓ 主題を表したり、示唆したり、方向付けたりしている。作者の意図が見えることが多い。「無題」という題もある。

▼連 || 詩の構造上・意味上のまとまりのこと。文章では段落にあたる。形式的に区切れていることが多い。

↓ 何連でできているか、各連の関係 (対句・反復など)、内容の変化やイメージなど、全体的に見る。

▼リズム ↓ 耳で聞いて分かることがある。声に出して読もう。

(2) 「部分」から考える

▼表記 ↓ 漢字・ひらがな・カタカナ、意味のある使い方があ

▼単語 ↓ なぜその単語を選んだのか、キーワードは何か。

▼表現技法 ↓ 比喩など、言葉の組み合わせの内容 (意味) と意図。

チャレンジ

① ワーク P.4 ～ P.5 に、教科書を見て取り組む。 ↓ ②へ

② 「解答・解説」を見て丸付けをする。 ↓ ③へ

③ 不正解だったところの原因を分析する。
・問題の読み取りミス
・答え方のミス
・ケアレスミス

原因が分析できて正解に納得できたら ↓ ④へ
原因が分からない、正解に納得できないなら
↓ 印をつけておき、後日先生に相談できるようにする ↓ ④へ

④ 「分かった」ところは「できる」ようになるまで練習する。
↓ よくがんばったね! 次に進もう!